こども浮世絵しんぶん

藤沢市藤澤浮世絵館 2024年 7月 第24号

江戸時代の「江の島みやげ」とは？

江の島は江戸時代も藤沢を代表する観光スポットでした。江戸から近いこともあり、人々は江の島にお参りして、すばらしい景色などを楽しんだあとにおみやげを買って帰りました。このおみやげは「江の島みやげ」と呼ばれ、江の島でとれる貝や食べ物が人気でした。

歌川広重「東海道五十三図会 七　藤沢」

左上の絵は江戸時代の浮世絵師、歌川広重が描いた「東海道五十三図会 七　藤沢」です。江の島にお参りして観光に行ってきた女の人が描かれています。この絵の中に「江の島みやげ」があります。女の人はどんなおみやげを買ったのでしょうか？次のページで特に人々に知られていたおみやげを紹介します。オニカゲ君と一緒に見てみましょう！

江の島みやげ①　貝びょうぶ

びょうぶに貝がらを張りつけて模様や絵を描いたものです。本のように閉じて持ち帰ることができたので、旅のおみやげとして人気でした。今では、貝があまりとれなくなってしまったので、作られなくなりました。

この絵は貝びょうぶを開いたところを描いているよ。

葛飾北斎「題名不詳（貝屏風）」

江の島みやげ②　あわび

絵にある丸い箱には、お酒を作るときに出る粕にあわびを漬けた食べ物が入っています。江の島はあわびがとれることで有名だったので、左の絵のように浮世絵にも名産として描かれました。数は少なくなりましたが、今でも江の島で食べることができます。

歌川広重「諸国名産　相州江の嶋産　鮑かす漬・貝細工」

今回は江戸時代に有名だった「江の島みやげ」を紹介しました。

江戸の人たちは、買った「江の島みやげ」を家族や友だちに渡すときに、江の島へ行ってきたことを自慢していたようです。「江の島みやげ」はほかにもたくさんあります。今のおみやげと比較してみてもおもしろいかもしれませんね。

今、藤澤浮世絵館で浮世絵と一緒に昔のおみやげや道具をみることができるよ！

開催中の展示

浮世絵とみる昔の暮らしの道具たち　生活・農耕・旅・お土産

2024年7月13日（土）～9月8日（日）